

【講師のプロフィール】

山口 幸夫(やまぐち ゆきお)氏

1937年新潟県生まれ。1965年、東京大学数物系大学院修了。物性物理学専攻。工学博士。米ノースウエスタン大学、東京大学を経て、現在、原子力資料情報室共同代表。

アイリーン・美緒子・スミス(あいりーん・みおこ・すみず)氏

コロンビア大学で環境科学の修士号取得。71年秋から水俣病取材のため、水俣に3年間住む。75年写真集「MINAMATA」の英語版をユージン・スミス氏と出版。スリーマイル島原発事故調査のため、現地に1年間住みその後も住民インタビューを行う。83年以來、福井県若湾の原発の安全性の問題に取り組み、90年高速増殖炉計画に反対する「ストップ・ザ・もんじゅ」事務局設立に参加。原子力委員会の長計の円卓会議、高レベル廃棄物関連も招聘された。現在、日本の原子力政策、プルトニウム利用問題に取り組む市民グループ「グリーン・アクション」代表。京都在住。

増田 純男(ますだ すみお)氏

東京都出身。成蹊大学大学院工業化学専攻修士課程修了。1969年、動力炉・核燃料開発事業団(動燃)に一期生として入社、1976年から高レベル放射性廃棄物のガラス固化技術開発、1979年から地層処分研究開発に従事。2000年、原子力発電環境整備機構(NUMO)に移籍。現在、非常勤参与として(財)原子力安全研究協会に勤務。

渡辺 満久(わたなべ みつひさ)氏

東洋大学社会学部教授。新潟県生まれ、東京大学理学系研究科地理学専攻博士課程修了、理学博士。専門は地形学(変動地形学)。「新編 日本の活断層」(東大出版会)、「九州の活構造」(東大出版会)、「都市圏活断層図」(国土地理院)、「活断層地形判読—空中写真による活断層の認定」(古今書院)などを共同執筆。国内および海外(中国・ロシア・韓国・台湾など)で活断層調査を実施。安全に原子力を利用するための活断層評価の問題点を指摘している。

松本 史朗(まつもと しろう)氏

1941年東京生まれ、東京工業大学大学院理工学研究科化学工学専攻修士課程修了、東京工業大学原子炉工学研究所助手、ウィスコンシン大学化学工学科博士研究員、埼玉大学工学部環境化学工学科助教授、埼玉大学大学院理工学研究科教授を経て、現在、(独)原子力安全基盤機構 技術顧問。専門は化学工学、核燃料サイクル工学。

牛山 泉(うしやま いずみ)氏

1942年長野県長野市生まれ、上智大学大学院理工学研究科博士課程修了。1971年足利工業大学機械工学科専任講師、助教授を経て1985年より教授、1998年放送大学客員教授、1998年中国・浙江工業大学客員教授、1998年足利工業大学総合研究センター・センター長、2006年足利工業大学副学長、2008年から足利工業大学学長。日本機械学会フェロー、日本風力エネルギー協会元会長、日本太陽エネルギー学会前会長、日本機械学会フェロー、日本太陽エネルギー学会前会長、日本風力エネルギー協会元会長、新エネルギー産業技術総合開発機構風力委員会委員長、新エネルギー財団企画委員会委員長及び風力委員会委員長などを歴任。文部科学大臣賞(科学技術普及啓発功績者)、国際協力推進協会学術奨励賞、World Renewable Energy Congress パイオニア賞など受賞歴多数。「新エネ・省エネの経済的導入法～事例に学ぶ計画と評価～」オーム社(2009)、「トコトンやさしい風力発電」日刊工業新聞社(2010)、「エネルギー工学」オーム社(2010)など風力及びエネルギー関連著書多数。